

＜生活科＞ 改善のポイント

（1）現状の分析

学校探検や2年生と一緒に生活科見学に行くなど、異学年との交流をたくさん設けることができた。交流することで、1年生は、学校について知り、身の回りの施設や人により関心をもつことができた。2年生は、1年生の頃に経験したことをもとに1年生のために、学校の紹介をすることができた。

学校の敷地内や周辺に季節を感じられる植物や生き物が少ない。そのため、生活科見学を行い、秋探しをすることができた。

植物や生き物を育てることに喜びを感じ意欲をもって取り組むことのできる児童は多いが、観察に対する関心や気付き、詳しく表現することに個人差が見られる。

学校や家庭、地域での実生での経験を活用し、課題解決に向けた考えを表現することが必要である。しかし、生活経験自体が希薄な児童も多くいるため、日々の学習の他に、学校や町探検・生活科見学など意図的に体験させることが有効と考える。また、経験を生かした学習をするために、2学年分の学習を見通して学習活動を設定することも行う。

（2）課題

1	観察カードを描くとき、描き方に個人差があり、描き方が分からない児童がいる。
2	私生活の中で、自ら遊びを工夫して楽しむ経験に個人差が見られる。
3	客観的に物事を考えることが難しい児童がいる。

（3）授業に取り入れたい改善策

1	色・形・大きさ・手触り・においなど、観察の視点を示す。
2	一人一人の経験や気付きを、全体で共有する時間を設ける。
3	相手の立場を体験させる機会を設ける。

R	5	観 点		
学 年		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・学校探検では、2年生に案内してもらったり、自分たちで探検に出かけたりして、学校のことを知ることができた。 ・学校探検、遠足、こどもまつりで2年生と交流するなどして、2年生や他学年の先生方との関わりができた。 ・アサガオを育てる中で、アサガオの生長について気付くことができた。 ・生き物と触れ合ったり世話をしたりする活動が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アサガオやサツマイモなどの生長過程について、五感を使って感じ、感じたことを絵や文で表現している。 ・植物のよりよい成長を願って、世話の仕方を考えたり、工夫したりし、表現している。 ・関わった人たちへの感謝の気持ちを意欲的に表現することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの経験を活かし、季節の移り変わりに身近なことから楽しんで見つけたり考えたりしようとしている。 ・2年生との交流では、話をよく聞き、関わり方を学びながら、楽しむことができた。 ・自分が育てた植物について関心をもち、思いや願いを持って関わっている。
	改 善 の ポ イ ン ト	<ul style="list-style-type: none"> ・異学年との交流の中で楽しかった経験を振り返る機会を設けて、新1年生を迎えるときに生かせるようにする。 ・学校探検や自然体験を通して、人や自然とのかかわりに関心をもてるように体験活動を多くする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「大きさ」「形」「色」「におい」「手触り」など具体的な観察の視点を与える。 ・体験を振り返ったり、自分の言葉で発表したりして、表現する場面を多くする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き生活経験を増やす。アサガオの花の汁で和紙を染めたり、ハガキに絵を描いたりすることで植物とのかかわりを楽しむ。 ・つるを使ったリース作り、新1年生に種をプレゼントするなど活動を工夫し、次に向けて意欲をもたせる。
2	現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・学校探検では、1年生に校内の案内をした。部屋の説明を具体的にすることができた。 ・ミニトマトやオクラ、ナス、ピーマンなどの野菜の栽培では、興味 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生の立場になって声掛けをしたり、説明したりすることができた。 ・植物を観察する時、伝えたいことの表現の語彙が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校探検や遠足などでは、1年生をリードし、率先して活動しようとする姿が見られた。 ・ミニトマトやオクラ、ナス、ピーマンの成長や変化に気付き、喜んだ。また、世話

	<p>深く観察し、成長過程や特徴に気付くことができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近な物を使って動くおもちゃを作ったり、遊び方やルールを工夫したりした。1～6年生を招待することができた。 	<p>め、伝わらないことがある。</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年度の経験を活かし、みんなが楽しめるおもちゃや遊びを工夫して用意することができた。 	<p>をする楽しさや喜びを味わっていた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 積極的に他の児童と関わろうとする児童と、関わりが難しい児童がいた。
改善のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 気付いたことや振り返りの時間を多く設け、次の学習に生かせるようにする。 学校にいる生き物や植物について、実際に観察するとともに、図鑑やインターネットで調べ、気付きや知識を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 「大きさ」、「形」「色」「手触り」など、具体的な観察の視点を与えるだけでなく、例えたり、比べたりして、観察した内容を伝え合うことで表現方法を多くする。 	<ul style="list-style-type: none"> 新しい発見や成長の喜びを伝え合ったり、友達と協力したりして、共感できる機会を設ける。 周囲との関わりや相手の状況を意識し、学習意欲を高める。 他の児童との関わりが難しい児童には、スモールステップでの個別支援を行う。